

韓国との姉妹都市について

新幹線駅を

大村市の顔である現大村駅へ!!

永尾議員

(1)姉妹都市について

現在大村市は、中国、ポルトガルとは姉妹都市を結び、交流を行っているが、最も近い外国である韓国とはあまり結びつきがない。これからさらなる国際社会を迎える中で、空港を持つ地理的状况を考えた場合、韓国との交流がベストであると考えられる。観光交流、文化交流、国際性豊かな青少年の育成、元気のある韓国経済からの大村での活用、お互い空の玄関口としてのソウル線の運休を1日でも早く復活するためにも韓国との姉妹都市を結ぶことがこれからの大村市の発展に必要なものである。

(2)新幹線について

分散化を選んだか、集中化を選んだかで、対照的な結果となったのが新幹線駅である。交通機関は、接続することでその効果が数倍になる。ただ、新幹線が停まるだけでは、ほとんど経済的効果は期待できない。「新」のつく新幹線駅のある都市はほとんどがダメになっている。新幹線の駅を大村駅にもつてくることはできないか。

市長 (1)現在県内で姉妹都市を提

携している自治体は、対馬市が釜山広域市影島区と、雲仙市が全羅南道求礼郡と提携している。韓国は中国と同様、大村市から近く空路もこれまでであったことから、関心をもち、親近感を持つている。姉妹都市の提携については、何か可能性がないかこれからも取り組んでいきたい。

姉妹都市の提携については、民間の盛り上がりが必要であると考えられる。これまでの姉妹都市についても民間主導により市が締結した経緯もある。民間の交流を大いに期待をしつつ、将来姉妹都市の機運が盛り上がり、提携について検討していきたい。

副市長

(2)新大村駅の設定は、基

本的には建設費用の問題があったようである。できるだけ費用がかからないようルートの設定がなされており、一番在来線に近く、空港やインターチェンジに近い場所ということで決められた経緯がある。全国の例もあり、心配をしているが、新大村駅で降りられた方をいかに中心市街地に運んでいくかが課題である。20年度予定している懇話会の中で議論していただきたい。いかに新幹線を大村のまちづくりの活性化に向けて生かしていくのかという視点で今後議論を深めていきたい。

地域防災、水防計画に基づき、

防災訓練は、しっかりと実施されているか

関係機関との連携はうまくいっているのか・・・

三浦議員

(1)防災行政について

①平成19年度実施した防災訓練の内容とその評価、特に今後の課題として明らかになった事項及び、平成20年度実施予定の防災訓練の実施時期、内容、その訓練の狙いについて。

②情報伝達方策のマスコミ等の活用で、マスコミ等との連携要領、あるいは協定事項とその手続の一つであるラジオの大村市内での電波伝搬状況の調査等について。

(2)都市計画道路行政について
①都市計画道路見直し等による池田・沖田線の富の原・坂口線以北の今後の予定について
②道路特定財源の成り行きによる右記路線の影響度について

市長

(1)①19年度は27回実施して

いる。航空機事故対策総合訓練や、水防訓練、災害危険場所、消防防災施設を地図上に落とす図上訓練などを実施した。危険箇所の再発見や防災意識の向上につながったと思っている。

20年度は前年に引き続き梅雨

前の水防訓練や各施設等の協力を得て、各種防災訓練に取り組みたい。災害時の要援護者の方を災害から守るため、自分の地域は自分で守るという意識の向上を図り、自主防災組織の組織率の向上に努めたい。

②周知効果は非常に高いものがあると思われている。大村市防災会議委員として報道機関代表者にも参加いただき連携に努めている。電波障害の状況調査については、今後調査取り組みへの準備をしたい。

(2)①現時点で明確な事業着手のめどはたっておらず、他の20区間と同様、当該区間も見直しの対象となっている。見直しの考案方は、都市環境上からの必要性等の観点から評価を行う。広く住民の方の意見を聞き、県のガイドラインに沿って最終的な判断を行っていきたい。

②見直し作業には直接影響しないものの、実施時期については大きく影響されるものと考えられる。

(その他の質問事項)

平成19年度実施した「生ごみ減量パートナーシップ推進事業」の実績と評価、今後の展望について。